

令和6年度岐阜県美術館協議会 議事要旨

1 日 時：令和7年2月5日（水） 15：00～16：02

2 場 所：岐阜県美術館 特別応接室

3 出席者：【委員】

村瀬会長、矢島委員、猫田委員、有賀委員、小野寺委員、河西委員、熊崎委員、所委員、岸委員、佐木委員、渡邊委員、安田委員（欠席：地守委員、林委員、向田委員）

【県】

美 術 館：日比野館長、小野副館長、正村副館長、青山課長、廣江担当主幹、
竹内課長、中藪係長、林係長

文化伝承課：高井課長、蒲係長、北川課長補佐

4 議 題：令和6年度の美術館事業について
令和7年度の美術館事業について

5 議事要旨：

（事務局） 令和6年度及び令和7年度の美術館事業について説明。

（渡邊委員） 説明中、広報の報告もあったが、県美には、エックスは2万2千人、インスタは3千人以上のフォロワーがいる。今後、SNSを活用する計画はあるか。

（正村副館長） 昨年度、AAICやこぐまちゃん展等SNSで、いわゆる「バズる」ということがあり、たくさんの方にお越しいただいた。インフルエンサーの方に再度お声掛けするなどあるが、現在、世の中に情報が溢れすぎている点もあるため、展覧会、事業の発信内容が重複しないように発信していきたいと考えている。

（青山課長） 現代美術の展覧会などでは、作品の撮影や、SNSでの公開を許可するという傾向があるが、内容によっては従来どおり撮影禁止の展覧会もある。そういった場合は、SNSでの発信を希望する来館者の要望に応えられるよう、例えば撮影コーナーを設置するなど、それぞれの担当者が工夫を重ねている。

（岸委員） 今年のパラレルモードはボリュームのある展覧会で堪能した。
また、団体鑑賞もたくさん受け入れていただき感謝している。夏休み前に神戸智行展に団体鑑賞で子どもたちを受入れてもらった。すると、夏休みの課題で子どもたちに明らかな変化がみられた。鑑

賞しただけでなく、アートから得たものがいろいろなものに還元されていくことを改めて感じた。これを「文化的処方」というのかと。美術館では、「文化的処方」を今後どう活用し、どう展開していくのかお尋ねしたい。

(日比野館長) 美術館や展覧会の評価を入館者数で測るのも、ひとつの判断材料になるかもしれないが、評価は必ずしも人数に比例するものではない。一人一人の心にどう響いたかという、人数とはまた違う評価がある。そこが文化的処方とも関連してくる。国民文化祭で、文化的処方の実験的な試みを行った。それは、美術館に入る前と鑑賞した後の人の顔を撮影し、「笑顔」という基準で測定するもの。まだまだエビデンスは十分ではないが、結果的には、鑑賞後の人の方が、笑顔の数が増えている。それが鑑賞したからなのか、その人の個人的な理由なのかは不明だが、いわゆる人数だけでは測れない部分が美術館にはあるということを今つくろうとしている。これは岐阜県美術館に限らず、日本中、世界中のアートに対する評価の「チャレンジ」。文化に関してはこういった評価もつくっていかないとならない。とはいえ、入館者数も重要であるため、発信も怠らず、また、公立の美術館だからこそその教育研究の部分もしっかり続けていく必要があると考えている。

(安田委員) ルドン・芳翠展はすばらしい展覧会だった。感動を得られた展覧会だったので、他の来館された方たちも満足されたと思う。ただ、資料を拝見し、年間入館者が本当にこんなに少なかったのかと驚いている。館長がおっしゃるように評価は入館者数だけで測れるものではない。

(小野寺委員) 日本の美術館は静かに鑑賞しなければならないという雰囲気があると思うが、幸福という観点からみて、対話をしながら鑑賞できる日や子どもを連れてきて自由に鑑賞できる日などを設けるなど、そういったことを想定しているのか。

(日比野館長) 昔と違い、今は対話型鑑賞もある。とは言え、静かに鑑賞したい方もいる。対話型鑑賞の日や、時間を設定するなど、全国の美術館が工夫している。障がいのある方のアクセシビリティをしっかりと実施する美術館もある。岐阜県美術館でも、盲目の方と鑑賞するという、チャレンジをした。盲目の方は、鑑賞できないのではないかと思われるかもしれないが、盲目の方からどんな絵なのか質問された場合、その絵について説明しなければならない。そこから会話が

始まる。今は様々な鑑賞方法がある。「Such Such Such」という県美のプログラムもそうだが、何も知らなくてもその絵をきっかけに互いの想像力を刺激しあうような、そんな鑑賞の仕方もある。

ICOM(アイコム)という美術館の役割など定義を定める世界的機関があり、数年前開催された京都会議で、美術館の定義がひとつ変わった。これまでは、作品を収蔵し、後世に伝えることが、一番中心だったが、美術館の定義に、いわゆる「地域の発信拠点になる」という項目が追加された。地域創生に繋がる地域らしさを発信していくといった役割も美術館にはあるので、鑑賞方法や満足度をきちんとリサーチし、地域の美術館、岐阜県美術館の価値をしっかりと伝えていく、つくっていくことがとても重要。鑑賞の仕方はその一番の根本的なところだと思っている。

以 上